

## 当社取締役会の実効性に関する分析・評価結果の概要について

当社は、取締役会が適切に機能しているか検討し、その結果から明らかになった問題点の改善や強みの強化等に継続的に取り組むことで、取締役会全体の機能向上を図ることを目的に、取締役会の実効性に関する分析・評価を行いました。

このたび、2023年度の分析・評価が完了しましたので、以下の通り、その結果の概要をお知らせいたします。

### 1. 取締役会の実効性の評価の実施要領

項目	内容
実施方法	取締役に対する個別アンケートを実施しました。
対象者	2024年3月期決算発表時点での現任業務執行取締役(5名)
質問内容	以下の大項目に関して質問を行いました。 ① 取締役会の構成 ② 取締役会の運営状況 ③ 取締役会の議題 ④ 取締役会の役割・責務 ⑤ 環境変化に関する洞察 ⑥ 経営資源等の内部環境の理解 ⑦ 情報収集とリスクマネジメント ⑧ 外部のステークホルダーとの関わり
評価方法	対象者の回答内容をふまえ、独立社外取締役(3名)及び監査役(4名)から構成される評価・報酬協議会に、取締役会の実効性について諮問しました。その答申結果を受け、最終的に取締役会にて分析・評価を実施しました。

## 2. 評価結果の概要

「企業の成長に不可欠な業績とガバナンスの水準向上に加え、投資家が上場企業に求める様々な基準を見据えた議論ができるような体制を作っていくべく、また、取締役会の実効性を高め続けるべく、不断の努力を図る必要がある」との評価・報酬協議会の考えのもと、以下の項目を中心に答申が行われ、分析・評価を実施しました。

- 最高経営責任者の後継者計画  
当社の持続的な成長に向け、次世代マネジメントの育成・選抜を行っているものの、コーポレートガバナンス・コードの原則 4-1③で求められているサクセッションプランの策定にまでは至っておりません。多様な経営者育成の方法について検討、実施していくことも一案であると考えます。
- リスク、コンプライアンス体制  
上場企業として、経営を取り巻く目まぐるしい環境変化に対応すべく、リスク、コンプライアンス及び財務に関連する情報、現場からの情報及び外部情報を素早く吸い上げる体制を更に拡充し、リスクコントロールや戦略的な経営に繋げていくことを期待します。
- 取締役会の構成  
営業企画・開発についての担当役員の増強等、スキルマトリックスの整備を期待します。加えて、ジェンダーバランスを踏まえたメンバーの構成について、引き続き検討を進めていく必要があると考えます。
- ステークホルダーとのコミュニケーション  
現在、上場維持基準に適合しない状況となっている為、投資家に対して十分な情報開示・発信を継続的に行う等、これまで以上に当社株式への投資意義を感じて貰えるようなコミュニケーションが必要であると考えます。

当社は、今回の取締役会の実効性評価の結果をふまえ、当社にとって最適なコーポレート・ガバナンス体制を構築すべく、引き続き検討を行ってまいります。

以上